

食品に含まれる放射性物質は基準値以下です

東電福島原発の事故から 7 年が経過しましたが、今でも食料品に含まれる放射性物質（放射性セシウム）の線量検査は、群馬県を含む東日本一帯の 1 都 16 県で続いています。

現在の基準値は、国際基準などを参考にして国が定めていますが、被爆線量の上限を年間 1 ミリシーベルトとし、食品の摂取量を計算し、1 k g 当たり、一般食品では 1 0 0 ベクレル、乳児用食品は 5 0 ベクレル、牛乳は 5 0 ベクレル、飲料水は 1 0 ベクレルとなっています。

群馬県では例えば、今年 4 月 9 日に沼田市のフキを検査し、7.0 ベクレル以下、昭和村のイチゴは 8.2 ベクレル以下などとなっています。

しかし、野生のキノコ、山菜などは県内各地で出荷制限や出荷自粛要請が、鳥獣についても出荷制限が続いています。

東電柏崎刈羽はじめ原発再稼働に反対しましょう

6 月 10 日投開票でたたかわれている新潟知事選は、東電柏崎刈羽原発の再稼働に反対し、野党共闘が推薦している池田千賀子さんを応援しましょう。

あなたはどちら派—西暦&元号

省庁間のデーターは西暦で一本化へ、証明書などは元号継続

来年 5 月 1 日から元号が変わる予定です。政府は省庁間のコンピューターシステムでやりとりするデーターの日付について現在は和暦（元号）と西暦の混在している現状を改め、西暦で一本化する方針です。行政手続きで使用する書類や証明書などは元号での表記を継続するとしています。

自治体などの書類は、元号表記がほとんどですが、いくつかの自治体で西暦併記が始まっていて、今回の機会に増える方向です。ちなみに、外国人向けに始めた自治体が多いようですが、日本人の平成生まれの若者は、西暦を利用する人が多いそうです。

日本共産党は西暦を使用していますが、「赤旗」新聞の日付には、読者のために元号が併記されています。



オーラルフレイル予防を学習

生協運営委員会や歯科診療所利用委員会で

5 月 10 日に老健とね多目的室で開催された利根保健生協沼田北支部運営委員会及び 23 日に開催された利根歯科診療所利用委員会で、利根歯科診療所の中澤桂一郎所長によるオーラルフレイル予防（口の健康維持）の説明がありました。

フレイルは虚弱のことですが、口から食べ物をこぼす、ものがうまく飲み込めない、滑舌が悪くなる等といった軽微な衰えを見逃した結果、全身的な機能低下が進むことを「オーラルフレイル」と言うそうです。

中澤先生は、オーラルフレイルが多くの高齢者に影響を与えているとして、病気等で入院している例をあげ、口をあけたままベッドに寝ている高齢者の多くが、流動食や点滴で栄養補給をしていて、口で食物を噛んで食事をしている人が少ないこと、それを病院の医師などが当然のこととしていることなどを示し、口の健康を取り戻す処置を講じ、口から食べれるようになったら、病気そのものも改善したことなどを説明しました。



オーラルフレイル予防には、7 つの提案がされました。①上記に示した「あいうべ体操」が第一②ピロピロ③嚥下おでこ体操④オランピック⑤舌力アップ体操⑥起立着席⑦市大ストレッチ、以上、内容説明は次の機会に。

2018 年 6 月 3 日 No.881

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町 983 ☎23-1519
井之川博幸議員活動地域版部内資料